

平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 チタン工業株式会社

コード番号 4098 URL <http://www.titankogyo.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 松川 正典

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長

(氏名) 重永 俊雄

TEL 0836-31-4155

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	3,374	△12.2	△333	—	△328	—	△341	—
21年3月期第3四半期	3,844	—	△280	—	△298	—	△399	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△11.33	—
21年3月期第3四半期	△13.24	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	8,137	3,721	45.7	123.52
21年3月期	8,249	4,028	48.8	133.70

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 3,721百万円 21年3月期 4,028百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,600	△1.7	△330	—	△330	—	△340	—	△11.28

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第3四半期	30,276,266株	21年3月期	30,276,266株
② 期末自己株式数	22年3月期第3四半期	148,744株	21年3月期	140,783株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第3四半期	30,130,880株	21年3月期第3四半期	30,146,025株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、輸出や生産など一部に持ち直しの兆しが見られましたものの、一昨年からの世界的な景気後退の影響は根強く、企業収益の大幅な減少や雇用情勢の悪化など依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような情勢のもとで、当社は既存製品の拡販と新製品の開発に注力する一方で、急激な景気後退の対処と今後の需要回復に備え、固定費の徹底した削減と生産調整による適正な在庫水準の維持に取り組んでまいりました。

その結果、これまで重点的に拡販に取り組んでまいりました新製品の出荷数量は順調に増加いたしました。景気後退の影響により既存製品の出荷数量が大幅に減少いたしましたので、当第3四半期累計期間の売上高は、前年同期を下回る3,374百万円となりました。一方、損益面につきましては、なお一層の固定費削減に取り組み、その成果をあげることができましたが、売上高の減少と大幅な減産に伴う製造原価上昇などの影響を受け、経常損失は328百万円となりました。また、特別損失として固定資産除却損を計上いたしましたので、当第3四半期累計純損失は341百万円となりました。

なお、当第3四半期会計期間（平成21年10月1日～平成21年12月31日）の損益につきましては、直前四半期に比べ、販売数量の増加、設備稼働率の上昇及び固定費低減の効果等がありましたので、経常利益は2百万円、四半期純利益は0百万円となりました。

主要製品別の概況は、次のとおりであります。

（酸化チタン）

高付加価値品の超微粒子酸化チタンは、新製品の拡販時期の遅れによる影響を受けましたが、UVカット化粧品向け新製品の拡販などにより前年同期並みの出荷数量を維持することができました。一方、酸化チタン全体の出荷数量は、世界的な景気後退の影響により、コンデンサー向け製品などの出荷数量が大幅に減少いたしましたので、前年同期を下回りました。

以上の結果、酸化チタンの売上高は1,859百万円（前年同期比 17.4%減）となりました。

（酸化鉄）

酸化鉄につきましては、トナー向け新製品の出荷数量が増加いたしました。世界的な景気後退の影響により、塗料向けやトナー向け既存製品の出荷数量が減少いたしましたので、出荷数量は前年同期を下回りました。

以上の結果、酸化鉄の売上高は1,327百万円（前年同期比 8.1%減）となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

（1）資産、負債、純資産の状況

資産につきましては、現金及び預金、受取手形及び売掛金、投資有価証券の増加などがあったものの、製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品、有形固定資産の減少などから、当第3四半期会計期間末8,137百万円と前事業年度末と比べて112百万円減少いたしました。

負債につきましては、短期借入金、賞与引当金、退職給付引当金の減少などがあったものの、買掛金、長期借入金の増加などから、当第3四半期会計期間末4,416百万円と前事業年度末に比べて195百万円増加しております。

純資産につきましては、四半期純損失の計上などから、当第3四半期会計期間末3,721百万円と前事業年度末に比べて307百万円減少いたしました。

（2）キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間におきましては、税引前四半期純損失の計上、売上債権の増加、有形固定資産の取得による支出、短期借入金、長期借入金の返済による支出などの資金減がありましたものの、減価償却費、たな卸資産の減少、仕入債務の増加、長期借入れによる収入などの資金増によりまして、前事業年度末に比べて281百万円増加（前年同四半期累計期間は20百万円増加）しており、資金の残高は782百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、現時点では平成21年11月12日に公表いたしました業績予想と変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

簡便な会計処理の適用

棚卸資産の評価方法

当第3四半期会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、当第2四半期会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

固定資産の減価償却費の算定方法

固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の見積りを考慮した予算に基づく年間償却予定額を期間按分する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等

継続的な営業損失又は営業キャッシュ・フローのマイナスについて

当社の業績は、長期にわたり低迷しており、営業損失又は営業キャッシュ・フローのマイナスが継続し、企業経営に影響を与える重要事象等が存在しております。当面の運転資金については十分に確保しており、今後の見通しにつきましても、中期事業計画を策定し、新規事業の育成をはかることで、早期に業績の回復を目指すこととしております。

当社は、厳しい経営環境を踏まえ、平成21年度から平成23年度までの中期事業計画を策定いたしました。今後の方針として、経営基盤の強化から持続的な成長を掲げ、業績の早期回復と収益構造の改善に取り組むこととしており、結果として、継続的な営業損失又は営業キャッシュ・フローのマイナスの解消に対処することとしております。

また、これらの対応策により平成22年3月期以降の事業継続にあたり重要な不確実性は存在していないと判断しております。

5. 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	783	502
受取手形及び売掛金	865	540
商品及び製品	1,159	1,508
仕掛品	290	380
原材料及び貯蔵品	512	620
その他	37	56
流動資産合計	3,648	3,609
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	1,165	1,232
機械及び装置(純額)	2,042	2,111
その他(純額)	423	480
有形固定資産合計	3,631	3,824
無形固定資産		
	2	2
投資その他の資産		
投資有価証券	447	393
その他	419	430
貸倒引当金	△10	△10
投資その他の資産合計	855	813
固定資産合計	4,488	4,640
資産合計	8,137	8,249
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	523	384
短期借入金	1,155	1,290
1年内返済予定の長期借入金	361	286
未払法人税等	6	10
賞与引当金	9	47
その他	373	293
流動負債合計	2,429	2,311
固定負債		
長期借入金	917	841
退職給付引当金	997	1,012
環境対策引当金	4	4
その他	68	50
固定負債合計	1,987	1,908
負債合計	4,416	4,220

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,443	3,443
資本剰余金	559	1,238
利益剰余金	△341	△678
自己株式	△25	△24
株主資本合計	3,635	3,979
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	85	49
評価・換算差額等合計	85	49
純資産合計	3,721	4,028
負債純資産合計	8,137	8,249

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	3,844	3,374
売上原価	3,460	3,152
売上総利益	383	222
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	99	92
賞与引当金繰入額	1	1
退職給付引当金繰入額	7	8
研究開発費	158	147
その他	396	305
販売費及び一般管理費合計	664	555
営業損失(△)	△280	△333
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	9	7
不動産賃貸料	10	—
助成金収入	—	44
物品売却益	17	—
その他	5	19
営業外収益合計	51	76
営業外費用		
支払利息	39	47
手形売却損	15	—
その他	14	24
営業外費用合計	69	71
経常損失(△)	△298	△328
特別利益		
投資有価証券売却益	41	—
特別利益合計	41	—
特別損失		
固定資産除却損	8	8
たな卸資産評価損	58	—
訴訟和解金	71	—
特別損失合計	137	8
税引前四半期純損失(△)	△395	△337
法人税、住民税及び事業税	3	3
法人税等合計	3	3
四半期純損失(△)	△399	△341

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△395	△337
減価償却費	245	248
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	△31	△38
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△36	△14
受取利息及び受取配当金	△17	△12
支払利息	39	47
その他の営業外損益(△は益)	△7	△46
投資有価証券売却損益(△は益)	△41	—
有形固定資産除却損	8	8
その他の特別損益(△は益)	71	—
売上債権の増減額(△は増加)	4	△325
たな卸資産の増減額(△は増加)	△200	547
仕入債務の増減額(△は減少)	279	236
未払消費税等の増減額(△は減少)	△9	35
小計	△90	350
利息及び配当金の受取額	20	13
利息の支払額	△32	△37
法人税等の支払額	△5	△5
その他の収入	44	83
その他の支出	△100	△12
営業活動によるキャッシュ・フロー	△163	391
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1	△1
定期預金の払戻による収入	1	1
有形固定資産の取得による支出	△115	△129
投資有価証券の取得による支出	△2	—
投資有価証券の売却による収入	111	—
貸付けによる支出	△3	△5
貸付金の回収による収入	76	0
その他の支出	△1	△1
その他の収入	0	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	64	△123
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350	—
短期借入金の返済による支出	△100	△135
長期借入れによる収入	—	300
長期借入金の返済による支出	△123	△149
自己株式の取得による支出	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	124	13
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	20	281
現金及び現金同等物の期首残高	360	501
現金及び現金同等物の四半期末残高	380	782

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
当社は、平成21年6月26日開催の第111回定時株主総会の決議に基づき、資本準備金678百万円（残額は559百万円）を減少させ、減少させた金額をその他資本剰余金に振り替え、さらに、その他資本剰余金を繰越利益剰余金に振り替えて欠損を補填いたしました。
これにより、資本剰余金が678百万円減少し、利益剰余金が678百万円増加いたしました。

6. その他の情報

(1) 販売実績

主要製品別	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
	金額(百万円)	金額(百万円)
酸化チタン	2,249	1,859
酸化鉄	1,444	1,327
その他	149	188
合計	3,844	3,374

(2) 四半期会計期間に係る経営成績

		前第3四半期 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	前第4四半期 (自平成21年1月1日 至平成21年3月31日)	当第1四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
		金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
売上高	酸化チタン	764	465	573	599	685
	酸化鉄	407	310	398	427	500
	その他	55	58	63	57	66
	合計	1,227	834	1,036	1,085	1,252
営業利益		△118	△210	△137	△196	1
経常利益		△144	△232	△118	△212	2
四半期純利益		△219	△300	△119	△222	0

以上